

2 0 1 8
アベリスツイス高校生派遣事業
報 告 書
(2018. 11. 5～11. 16)



与 謝 野 町

目次

○団長挨拶	・・・・・・・・	1
○団員名簿	・・・・・・・・	2
○交流のあゆみ		
フランク・エバンス氏と与謝野町	・・・・・・・・	3
交流のあゆみ	・・・・・・・・	4
○アベリスツイスの紹介	・・・・・・・・	7
○2018年アベリスツイス訪問事業日程概要	・・・・・・・・	9
○研修報告書		
宮津高等学校	1年 牛田 詩穂	・・・・・・・・12
宮津高等学校	1年 太田 健斗	・・・・・・・・31
宮津高等学校	1年 森本 真依	・・・・・・・・42
加悦谷高等学校	2年 井戸本 愛羽	・・・・・・・・45
宮津高等学校	2年 丸山 大空	・・・・・・・・52
○随員職員報告書		・・・・・・・・59
与謝野町観光交流課 主任	廣谷 章彦	
与謝野町観光交流課 主事	谷原 春加	

団長挨拶



与謝野町長 山添 藤真

アベリスツイスと本町の交流は、第二次世界大戦中、日本軍の捕虜となり大江山ニッケル鉱山で強制労働を強いられた故フランク・エバンス氏が、昭和 59 年に旧加悦町を訪問し、大江山運動公園に平和を願う慰霊碑を建立したことをきっかけに始まり、友好の架け橋として高校生の相互派遣交流を隔年で行っています。

平成 30 年度までにアベリスツイスの高校生 63 人、本町の高校生 75 人がお互いの町を訪問しています。本事業では双方の友好協会などの関係者が、交流や体験を通じてお互いの歴史・文化・生活・習慣などを理解することが出来る貴重な機会となっており、また日本という国を改めて見直し、戦争のない平和な世界を目指す人材の育成といった目的も持っています。

本事業のきっかけを作り、未来ある若者たちに平和の大切さを伝えようとされた故フランク・エバンス氏の桜の平和メッセージを理解し、行動していきたいと考えています。

Consider our blossoms which are beautiful in life and death. Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but instead allow us all to live and die naturally and beautifully in peace for ever more. EIEN NO HEIWA

(咲いているときも、散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように。そして全ての人間が平和のうちに生をまっとうできますように。エイエン ノ ヘイワ)

私自身が団長として同行させていただいた今回のアベリスツイス訪問では、アベリスツイス大学との包括連携協定への調印に加え、ケレディギオン議会議長やアベリスツイス町長といった現地の行政関係者と意見交換を重ね、本事業の継続の意向を確認し合いました。

私達はこれからもアベリスツイスの皆様と交流を続けたいと考えており、アベリスツイスと本町の人々が、お互いを理解し、平和のために活躍されることを願っています。

訪問団名簿

団 長	山 添 藤 真	与謝野町長
研 修 生	牛 田 詩 穂	宮津高等学校 1 年生
研 修 生	太 田 健 斗	宮津高等学校 1 年生
研 修 生	森 本 真 依	宮津高等学校 1 年生
研 修 生	井 戸 本 愛 羽	加悦谷高等学校 2 年生
研 修 生	丸 山 大 空	宮津高等学校 2 年生
随行職員	廣 谷 章 彦	与謝野町観光交流課主任
随行職員	谷 原 春 加	与謝野町観光交流課主事

※ 山添町長は 11 月 5 日から 11 月 8 日までのみ同行

フランク・エバンス氏と与謝野町

—フランク・エバンス (Frank Evans) —

1917 年 5 月 23 日、Cribyn Lampeter (ウェールズ) に生まれ、第 2 次世界大戦中、軍人として香港で兵役に就いていた 1941 年、日本軍の捕虜となり、1943 年に日本に送られ、鉱山での労働を強いられました。1945 年、終戦と同時に帰国、40 年が過ぎた 1981 年、香港を訪れた帰国時の飛行機内で日本人女性鬼頭さんと知り合い、鬼頭さんの力を借りながら、ついに京都大江山のニッケル鉱山跡にたどりつきました。

晩年は、旧加悦町とアベリスツイスの交流推進に力を注ぎ、多くの人から愛され親しまれました。

1996 年 11 月 6 日逝去。享年 79 歳。

—メッセージ—

著書「ROOL CALL AT OEYAMA」大江山の点呼

Sakura Peace Message By Frank Evans

(桜の平和メッセージ フランク・エバンス)

Consider our blossoms which are beautiful in life and death. Never again let us and human beings die in an ugly holocaust but, Instead, allow us all to live and die naturally in perfect peace for ever more.

(咲いているときも、散った後も美しい桜。二度と再び人間が、無残に命を失うことのないように。そして全ての人間が平和のうちに生をまっとうできますように。)



—交流のきっかけ—

旧加悦町とアベリスツイスの交流は、第 2 次世界大戦時に旧大江山ニッケル鉱山での戦争捕虜体験を持つ故フランク・エバンス氏が、鉱山で亡くなった戦友の慰霊碑の除幕式のために、昭和 59 年に加悦町を訪問されたことをきっかけに始まりました。故フランク・エバンス氏は、加悦町との交流の推進に取組み、友好の絆を結ぶ礎が築されました。

—高校生相互派遣交流からアベリスツイス大学との連携へ—

平成 4 年から、友好の架け橋として未来ある高校生の相互派遣交流を進め毎年度受け入れと派遣を交互に行い、年々交流が深まっています。

本町とアベリスツイスの高校生交流は、双方の友好協会などの交流事業関係者が参加し、ホームステイや体験を通じてお互いの国の歴史・文化・生活・習慣などを理解することができる貴重な機会となり、両町の交流推進の大きな柱となっています。

交流のあゆみ

日 程	内 容
昭和 59 年 11 月 13 日	フランク・エバンス氏が加悦町を訪問 大江山運動公園に平和を願う慰霊碑を建立（11 月 20 日除幕式）
昭和 60 年 6 月 6 日 ～6 月 13 日	細井拓一加悦町長・西原正二議会議長がアベリスツイスを訪問
昭和 61 年 12 月	両町の交流を記念してアベリスツイスの木「キングサリ」を大江山運動公園に植樹
昭和 62 年 12 月	フランク・エバンス氏加悦町を再度訪問し両町友好の推進を誓う アベリスツイス・タウンホール前に加悦町から贈った桜の木を交流の記念として植樹
平成元年 3 月	ウェールズ大学国際センター所長ジェフリー・ブラウン氏が加悦町を訪問 ウェールズ大学アベリスツイス校への町民語学研修生派遣の道が開かれる
平成 2 年 6 月 28 日 ～9 月 12 日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生 2 名を派遣
平成 3 年 8 月 27 日 ～9 月 20 日	ウェールズ大学アベリスツイス校に町民語学研修生 2 名を派遣
平成 4 年 7 月 1 日 ～7 月 10 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 2 名をホームステイで 12 日間受け入れ
平成 5 年 11 月 3 日 ～11 月 11 日	小西英雄助役を団長に町内高校生 8 名がアベリスツイスを訪問、ホームステイで 8 日間滞在
平成 6 年 8 月 21 日 ～9 月 2 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 2 名をホームステイで 12 日間受け入れ
平成 7 年 10 月 28 日 ～11 月 10 日	町内高校生 5 名アベリスツイス訪問、ホームステイで 10 日間、ロンドン 3 日間滞在
平成 8 年 7 月 8 日	民間レベルの交流を推進するため、加悦アベリスツイス友好協会設立
平成 8 年 7 月 14 日 ～7 月 28 日	アベリスツイス・ペンウェディグスクールの生徒 8 名、教師 1 名を 14 日間受け入れ
平成 9 年 3 月 30 日	外務省の招聘を受け来日したアベリスツイス在住のグウィン・デービス氏とドナルド・グリフィス氏が加悦町を訪問 旧大江山ニッケル鉱山跡や大江山運動公園の慰霊碑を見学
平成 9 年 10 月 29 日 ～11 月 12 日	町内の高校生 5 名が、アベリスツイスを訪問し、ホームステイで滞在 ペンウェディグスクール高校生との交流やアベリスツイスの教育・歴史・文化施設などの見学を行い、ウェールズに対する理解を深めた

平成 10 年 10 月 20 日 ～10 月 30 日	アベリスツイス高校生 3 名、アベリスツイス加悦友好協会会長、 友好協会会員の 2 名が 11 日間の日程で加悦町を訪問
平成 11 年 2 月 9 日 ～2 月 15 日	加悦アベリスツイス友好協会が 7 日間の日程で、6 名の社会人訪問 団を派遣
平成 11 年 10 月 28 日 ～11 月 9 日	町内高校生 5 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 12 年 10 月 22 日 ～11 月 4 日	アベリスツイス高校生 6 名と先生 1 名が 14 日間の日程で加悦町を 訪問
平成 13 年	アベリスツイスへの高校生訪問団派遣をアメリカ同時多発テロ事 件のため中止
平成 14 年 10 月 27 日 ～11 月 8 日	町内高校生 5 名を 13 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 15 年 10 月 24 日 ～11 月 5 日	アベリスツイスの教師と高校生 6 名が 13 日間の日程で、ホーム ステイにより滞在
平成 16 年 8 月	ペングライス高校の生徒 1 名をホームステイにより受け入れ
平成 16 年 10 月 30 日 ～11 月 11 日	町内高校生 6 名を 13 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 17 年 10 月 20 日 ～11 月 1 日	アベリスツイス高校生 6 名と先生 1 名、随員 1 名が 13 日間の日程 で、ホームステイにより交流を深めた。
平成 18 年 10 月 27 日 ～11 月 8 日	太田貴美与謝野町長を団長に、町内高校生 6 名を 13 日間の日程で アベリスツイスへ派遣 与謝野町としての交流を記念し、町の木「椿」の苗木を植樹
平成 19 年 10 月 25 日 ～11 月 7 日	アベリスツイスの教師と高校生 6 名が 14 日間の日程で、ホーム ステイにより滞在
平成 20 年 10 月 29 日 ～11 月 9 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 21 年 10 月 21 日 ～10 月 29 日	アベリスツイス高校生 6 名と随員 2 名が 9 日間の日程で、ホーム ステイにより滞在
平成 22 年 11 月 2 日 ～11 月 13 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 23 年 10 月 19 日 ～10 月 26 日	アベリスツイス高校生 7 名と随員 1 名が 9 日間の日程で、ホーム ステイにより滞在
平成 24 年 11 月 3 日 ～11 月 14 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 25 年 10 月 25 日 ～11 月 5 日	アベリスツイス高校生 5 名と随員 1 名が 12 日間の日程で、ホーム ステイにより滞在
平成 26 年 7 月 5 日 ～7 月 16 日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生 6 名を 12 日間の日程で アベリスツイスへ派遣

平成 27 年 2 月 23 日	与謝野町・アベリスツイス大学間の包括協定を締結
平成 27 年 7 月 24 日 ～8 月 9 日	与謝野町民 3 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 27 年 8 月 24 日 ～9 月 4 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 27 年 11 月 9 日 ～11 月 10 日	アベリスツイス大学職員 2 名が与謝野町を視察
平成 28 年 1 月 21 日 ～1 月 30 日	アベリスツイス大学から 8 名の学生と随行教員 1 名が 10 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 28 年 8 月 1 日 ～8 月 12 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 28 年 8 月 15 日 ～9 月 9 日	与謝野町民 2 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 28 年 10 月 23 日 ～11 月 3 日	町内高校生 6 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣
平成 29 年 1 月 26 日 ～2 月 4 日	アベリスツイス大学から 8 名の学生と随行教員 1 名が 10 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 30 年 1 月 26 日 ～2 月 5 日	アベリスツイス大学から 5 名の学生と随行教員 1 名が 11 日間の日程で、学生はホームステイにより滞在
平成 30 年 2 月 16 日 ～2 月 25 日	アベリスツイス高校生 6 名と随行 2 名が 10 日間の日程で、ホームステイにより滞在
平成 30 年 7 月 30 日 ～8 月 10 日	与謝野町民 1 名がアベリスツイス大学サマースクール留学事業に参加
平成 30 年 11 月 5 日 ～11 月 16 日	山添藤真与謝野町長を団長に、町内高校生 5 名を 12 日間の日程でアベリスツイスへ派遣

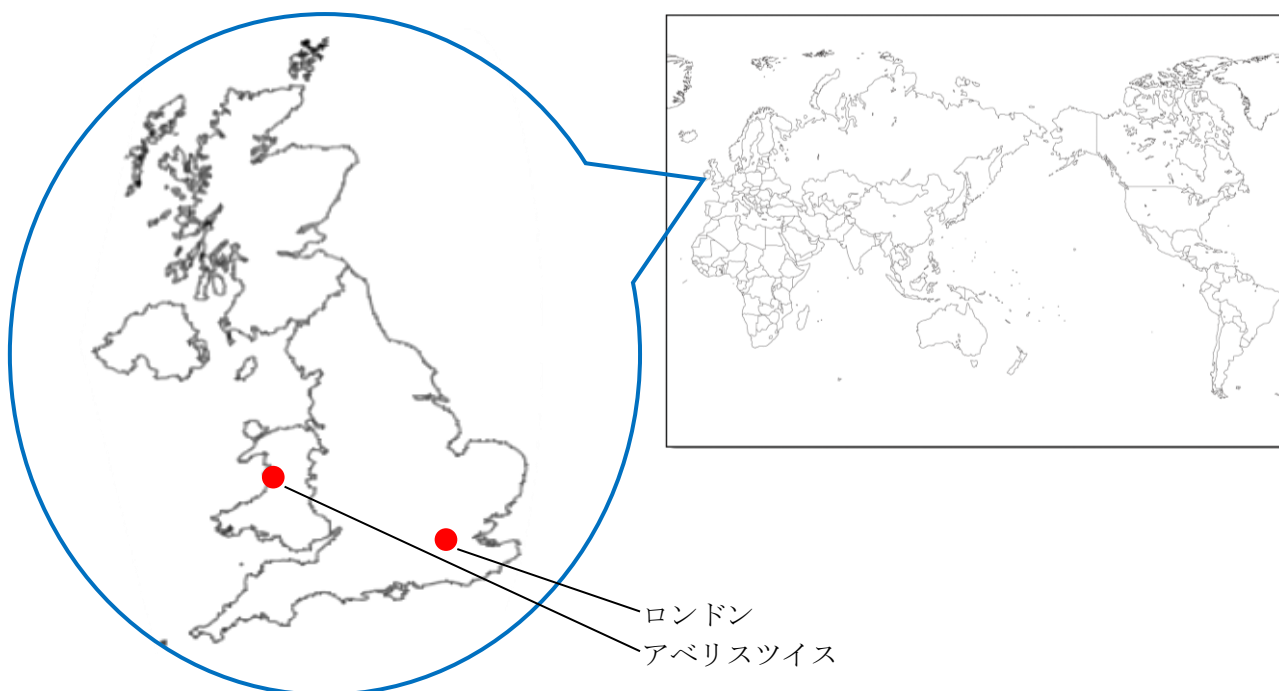
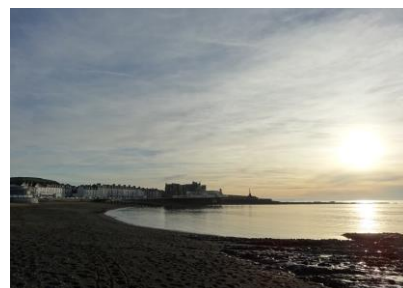
—アベリスツイス (Aberystwyth) —

イギリスのロンドンから西へ列車で約 5 時間のカーディガン湾に面した人口約 20,000 人の町です。

主な産業は農業(牧畜)や観光業で、アベリスツイス大学、国立図書館など文教施設があることから学生が多く、世界各国からの留学生も多いところです。

街並みや美しい海岸が印象的な美しい町です。

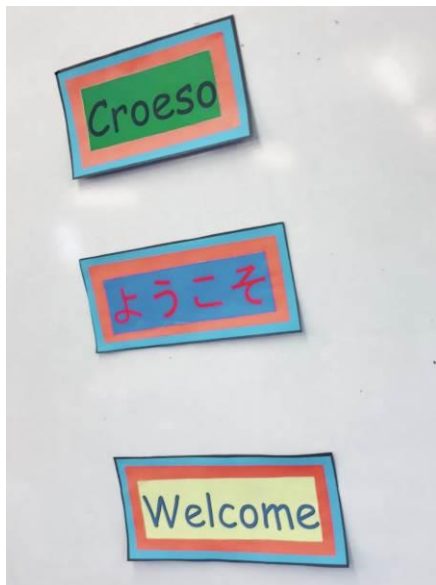
ウェールズの歴史と文化を誇りにし、ウェールズ語を多くの人が話し、町のサインも英語とウェールズ語が併記してあります。陽気で歌の好きな親切な人々が多いところです



言語

ウェールズ語の語源は、ヨーロッパで最も古いとされている言葉の一つであるケルト語（ゲール語）です。ウェールズ語で Wales のことを Cymru カムリと言い、「同胞の人々の住む国」といった意味があります。「Croeso i Cymru (クロイソ・イ・カムリ=ようこそ、ウェールズへ)」というサインがあちこちに掲げられ、旅人を温かく迎えてく

れます。また、標識などはすべて公用語である英語とウェールズ語の二通りで示されています。



平成30年度アベリスツイス交流事業

高校生派遣 研修日程

◆事前研修

【第1回】

- (1) 日程 平成30年9月26日(水)
- (2) 場所 岩滝保健センター
- (3) 内容
 - ・事業目的説明
 - ・スケジュール確認
 - ・各種手続き書類準備について



【第2回】

- (1) 日程 平成30年10月3日(水)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・各種手続き書類の確認
 - ・自己紹介
 - ・アベリスツイスと交流のあゆみについて



【第3回】

- (1) 日程 平成30年10月12日(金)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容
 - ・イギリス、ウェールズ、アベリスツイスはこんな国
 - ・前回のアベリスツイス訪問について



【第4回】

- (1) 日程 平成30年10月20日(土)
- (2) 場所 元気館および大江山運動公園周辺
- (3) 内容
 - ・慰霊と誓いの祭事
(主催・与謝野アベリスツイス友好協会)
 - ・ホームステイの心得、諸注意



【第5回】

- (1) 日程 平成30年10月25日(木)
- (2) 場所 与謝野町役場野田川庁舎
- (3) 内容

- ・旅行説明（日本旅行）
- ・研修の心得
- ・研修テーマを決めよう
- ・出発日・帰国日のスケジュール

◆現地研修（平成30年11月5日～11月16日）

日 程		事 項	内 容
5 日	月	与謝野町を出発	町手配のバスで移動
		関西国際空港出発	ドバイ国際空港で乗り換え、バーミンガム国際空港へ
6 日	火	バーミンガム国際空港出発	電車でアベリスツイスへ
		アベリスツイス到着	友好協会手配のバスで移動
		ペングライス校でホストファミリーと面会	アベリスツイス大学の学生寮（Bankhouse）へ入寮
7 日	水	Food Centre Wales 見学	Arwel 氏、Ceredig 氏案内
		ABER Instruments 見学	
8 日	木	ホストファミリーの通う学校見学	
		アベリスツイス大学ツアー	国際事務所員の Rachael 氏の案内
		町長：アベリスツイス大学、アベリスツイス町長	包括連携協定調印式 アベリスツイス町長との懇談
		歓迎レセプション（友好協会主催）	Hag 氏（Ceredigion 議会議長）同席
9 日	金	町長：アベリスツイス駅から帰国の途に	
		ファーム（Betsan 宅）見学	Arwel 氏案内
		旧 Town Hall 前	植樹した桜の前で記念撮影
		Ceredigion 博物館見学	Ceredig 氏案内
10 日	土	高校生：ホストファミリー	
		随 行：Mair 宅へ招待 Penglais 校関係者と会食	Llanerchaeron、Aberaeron 散策 Penglais 校教師 8 名が同席
11 日	日	Remembrance Sunday	Arwel 氏、Ceredig 氏案内 第一次世界大戦終戦記念パレード及び式典に参加
		故フランク・エバンス氏の墓参り	Talybont にある墓前で平和の希求を誓う
		高校生：ホストファミリー	

12 日	月	ペン글ライス校内見学	植樹した椿の前で記念撮影
13 日	火	ペンウェディグ校内見学で交流	Carol 氏案内
		プライマリースクール（3～11 才）で授業見学と児童との交流	
14 日	水	Machynlleth の水曜マーケット見学	Eilian 氏、Arwel 氏案内
		ウェールズ国立図書館見学	
15 日	木	アベリスツイス出発	電車でバーミンガム国際空港へ
		バーミンガム国際空港出発	ドバイ国際空港で乗り換え、関西国際空港へ
16 日	金	関西国際空港から与謝野町へ	町手配のバスで移動
		与謝野町に帰着	

◆事後研修

- （１）日程 平成30年12月11日（火）
- （２）場所 与謝野町役場野田川庁舎
- （３）内容
 - ・研修報告会における報告方法、内容等について
 - ・実績報告書の作成について

◆研修報告会

- （１）日程 平成30年12月26日（水）
- （２）場所 岩滝保健センター
- （３）内容
 - ・訪問報告
 - ・質疑応答



アベリスツイス交流・高校生派遣事業報告書

牛田詩穂

● フランク・エバンスさんの思い

身をもって体験した戦争の悲惨さを考えたとき、「二度と戦争をしてはならない」との思いを強くし、そのためにはお互いの国の将来ある高校生(若い人)が交流し理解しあうことが両国の平和に寄与するものと信じている。また、この精神を永遠に引き継いでほしい。

● 研修にあたって

- ・フランク・エバンスさんの思いに賛同する
- ・与謝野町を代表し親善大使として両町の交流の発展に努める
- ・ウェールズ、アベリスツイスを知る
- ・アベリスツイスの方に、日本、与謝野町を知ってもらう
- ・フランク・エバンスさんの思い、自分の経験を将来に渡って多くの方に伝える
- ・将来、両国政府の関係が悪くなっても、不幸にも両国が戦争をすることになっても、両町民、知りあった人達との絆は永遠に結ぶ

● 私の訪問目的(研修テーマ)

訪問している間に、両国の人に何を伝えるべきなのか、アベリスツイスのいろんな面をよく知り、伝えたいことを深めていく

● ウェールズ、アベリスツイスってどんなところ？

アベリスツイスは、ウェールズの中にある町です。
ウェールズの首都はカーディフ市、人口は30万人ほどで、産業革命時代、炭鉱で栄えましたが、鉱業が衰退してからは軽工業やサービス業が経済を支えています。また、農業は土壌が貧しい為に牧畜(主に羊牧)が中心で、少し町から外れると羊たちの長閑な風景をみることができます。



● ホストファミリーの紹介



左から、長女 Sophie
父 Mark
長男 Jonah
母 Marie
次女 Marcie

とっても優しくて、明るくて、面白い家族でした！！

● 一日目(6日)

岩滝庁舎で出発式をして、関西国際空港に向かい、関西国際空港からドバイ空港を経由してバーミンガム空港へ、そこから電車でアベリスツイスまで、約1日の移動でした。

初めての海外で、移動だけでくたぐたでしたが、アベリスツイスの駅に着いてホストファミリーと顔合わせをしたときは、本当にアベリスツイスに来たのだと実感がわき、これから待っている色んなことにわくわくしました。

● 二日目(7日)

二日目は、ウェールズフードセンターを訪れました。



ここでは、様々な食品の加工製造を行っている会社なのですが、、
他とは違った特徴がありました。

それは、**食品の加工を行う為の機械を貸し出してくれる**ところです。

具体的に説明をすると、自分の家で作ったものを使って商品にしたいけれど、機械を買える
ほどのお金が無い方のために、専門の機械を貸し出してくれるということです。

誰でも気軽に食品加工に挑戦できるところがとっても魅力的だなと思いました。

実際に加工した食品を食べさせてもらいました。

とってもおいしかったです！！

その後、アバーを訪れました。



ここでは、薬の研究や開発などの、科学的なものを専門に扱っているそうです。

薬の研究や、開発にあたっての説明をたくさん受けましたが、私にはとても難しすぎてわかり
ませんでした。

● 三日目(8日)

3日目の午前中はアベリスツイス大学を訪れました。

アベリスツイス大学の留学生の方たちと交流をして、自己紹介や、なぜ自分たちがアベリスツイスに来ることになったのかを話したり、心理学の話を聞いたりしました。

そのままお昼も留学生の方と一緒に食べて、たくさん交流できました。



午後は、夜にあるレセプションの為にダンスの練習をして、本番のレセプションでは、練習の成果を発揮することが出来ました。

その他にも、他のメンバーのホストファミリーとも交流ができました。





● 四日目(9日)

四日目の午前中は、牧場を訪れました。

牧場に行くのは初めてで、見るすべてのものが新鮮でした。



上の写真の堀はセメントなどを使わずに石だけを積み上げて作っているそうです。

この作り方は、アベリスツイスで伝統的な作りだそうです。

他にも、もう使われていない昔の家をみたり、山の上まで行くと、海が見えたいと絶景でした。



午後からは、ケレディジョン博物館を訪れました。



この博物館は、元々劇場だった場所を改装して作られていて、スクリーンなどが残っているのがとても魅力的でした
昔の家庭製品や、服装などたくさんのものが展示されていました。



● 五日目(10日)

この日は一日中ホストファミリーと過ごしました。

ポウイス城を訪れたり、クリスマスマーケットに行ったりしました。

ポウイス城は日本のお城とは違って、レンガ造りだったし、装飾品が多かったし、とてもきらびやかで、童話にあるシンデレラや白雪姫の世界に入り込んだようでした。



クリスマスマーケットは多くの人で賑わい、クリスマスの飾りや、食べ物などがたくさん売られていました。



● 六日目(11日)

この日は、戦没者追悼式がありました。

たくさんの遺族の方々と一緒にアベリスツイスの町を歩いてまわり、慰霊碑に黙祷を捧げました。



その後、この研修に参加しているメンバーと、そのホストファミリーとで、
フランク・エバンスさんのお墓を訪れました。



フランク・エバンスさんのお墓を訪れて、私は、フランク・エバンスさんの思いをしっかりと、受け止めて伝えていかななくてはならないなと改めて思いました。

その後は、各々のホストファミリーと過ごしました。

私は、とんびのえさやりを見に行ったり、サッカーをしたり、カードゲームをしたり、ホストマザーが作ってくれたケーキにデコレーションをしたりして過ごしました。

今までで一番色々な事を出来た一日でした。





● 七日目(12日)

この日は、ペングライス高校を訪れました。

ペングライス高校は、英語系の学校で、日常会話も英語です。

この学校に来ている留学生の方と母国の話をしたいして交流をしました。

その後、留学生の方と一緒にこの学校に植えてある椿の花を見に行きました。



この椿、平成18年に太田町長らがアベリスツイスへ訪れたときに植樹されました。

その後も、美術の授業や、地理の授業、音楽の授業などを受けさせてもらいました。



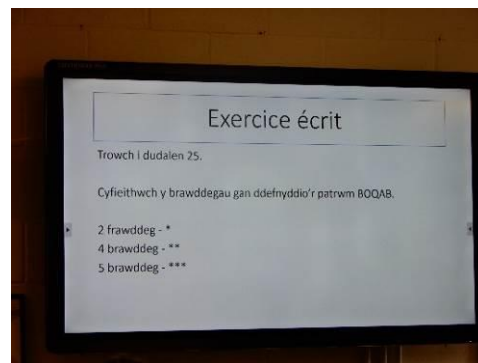
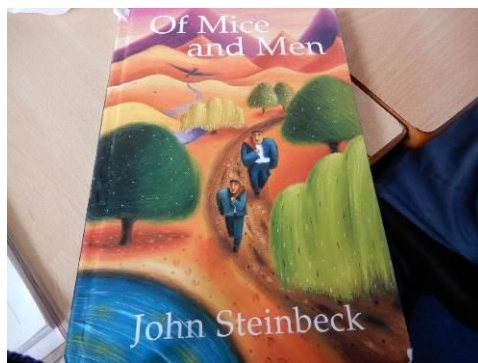
どの授業にも共通しているのが、生徒それぞれが同じ授業の中で違ったことに取り組んでいるということでした。自分のやりたいことに取り組めるのは日本にはあまりなく、魅力的でした。

● 八日目(13日)

この日は、ペンウェティグ高校を訪れました。

ペンウェティグ高校は、ウェールズ語系の学校で、日常会話もほとんどがウェールズ語でした。

世界史の授業や、国語の授業、フランス語の授業などを受けさせてもらいました。



少し前に与謝野町を訪れた、先生ともお話をしました。

外国の方から見た与謝野町は、自分が気付かなかったことも多く、聞いていて面白かったです。



この日は、ホストファミリーの家で、日本から持ってきたお土産を渡しました。
まいや、丹後の写真本などを渡しました。



● 9日目(14日)

この日は、毎週やっているマーケットに行く予定でしたが、季節柄、お店があまいなかったなので、美術館や、教会を訪れました。

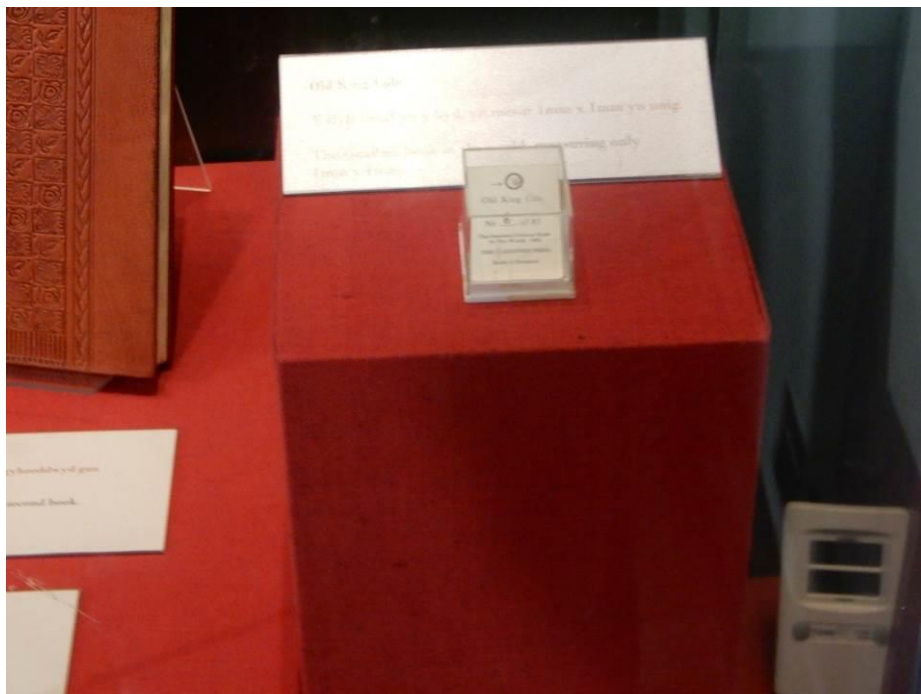


お昼からは、アベリスツイスの国立図書館を訪れました。

ここでは、普通は入ることができない資料などの保管場所に入って、昔のアベリスツイスの地図や、新聞記事などを見せていただきました。



この図書館には、世界で図書として認められているものの中で、一番小さいものが展示されていました。



小さすぎて、何かが書いてあるのかは全く分かりませんでした。

そしてこの日は、アベリスツイスでご飯を食べられる最後の日でした。
他のメンバーや、そのホストファミリーとも一緒に最後の食事を楽しみました。



● 十日目(15日)

朝、出発前の駅にホストファミリーが見送りに着てくれました。
みんな、抱き合ったり、握手をしたりして別れを惜しかったです。



～アベリスツイスに行って～

今回、アベリスツイスに行って私は、とても温かい人達で溢れている町だなと思いました。

日本から来た私たちを優しく迎え入れてくださって、本当に家族のようでした。

そんなことを考えるのと同時に、この関係は、長い年月をかけて作上げられたものなんだと実感しました。だからこそ、この関係を二度と壊してはいけなく、戦争をしてはいけなくと強く思いました。

今の関係のように、お互いが尊重しあっていくことが、これからの将来必要であり、私は、アベリスツイスを訪れた身として、自分が学んだことを、しっかりと発信していこうとおもいました。

こんな貴重な体験が出来て、本当に楽しかったです。この事業に携わってくださった皆さん本当にありがとうございました。

アベリスツイス派遣事業報告書

宮津高等学校 1年 太田健斗

○交流事業参加理由と目的

夏休みに高校の担任の先生から、アベリスツイス交流事業に参加してみないかと言われ、どんな交流事業なのかと調べたら、第二次世界大戦中にフランク・エバンス氏が捕虜となって与謝野町に連れてこられたことや終戦後フランク・エバンス氏が与謝野町を訪問されたことがきっかけで交流事業が始まったことを知りました。

アベリスツイスとはどのような所なんだろうと思いました。

与謝野町民として、交流事業に参加してアベリスツイスがどういう町なのか文化を知り、また、与謝野町のことや僕がしている剣道を知ってもらい交流ができればと思いました。



ウェールズの国旗



☆アベリスツイス

アベリスツイスはイギリスのウェールズ地方にある、西海岸沿いの町です。自然豊かな町で丘陵が多くそこでは、羊や牛がたくさん飼育されていました。街並みは、レンガや石造りの家が多く、ハリーポッターの映画で見るような素敵な感じでした。



アベリスツイス大学、ペングライス校、ペンウエディグ校やプライマリースクールがあり、朝は、登校する学生によく出会いました。アベリスツイスは学生の多い町です。11月のアベリスツイスは風が強く、雨が降ったりやんだりの繰り返しで、晴れる日は2日ぐらいしかありませんでした。気温は10℃もなく、とても寒かったです。アベリスツイスの皆さんはコートやマフラー、手袋で真冬並みの服装でした。自分の服装はそれに比べると薄着で寒かったです。



☆ホストファミリー

L e a u n (パパ)



おっとりとしたお父さんですが、とてもユーモアがあり、僕に気遣いしてくださる優しい方です。

仕事は、プライマリースクールで働いておられます。

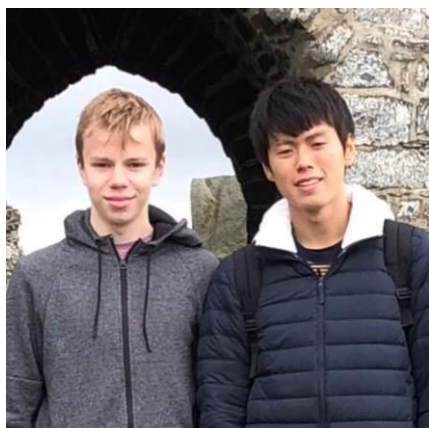
S a l l y (ママ)

家の中のすべてのことを取り仕切っておられるしっかりしたお母さんです。
家の中ではいつも忙しそうでした。
仕事は、ペングライス校で働いておられます。



D y l a n

僕と同級生でペンブライス校の 16 歳です。ユーフォニアムとヴァイオリンを習っていて、音楽と数学が好きです。最初はお互いうまく話すことができなかったけど、ダラン君が誘ってくれて、一緒にゲームをしたり、スカッシュをしたりしてだんだん打ち解けることができました。僕の英語を一生懸命理解しようとしてくれたり、僕もダラン君の話を理解しようと後半はたくさん話をすることができました。僕がしている剣道の話も興味をもって聞いてくれました。



ダラン君とお兄さんとの
スカッシュ



11月8日 (Thursday)

戦没者追悼式のためのポピーの花輪をスカウトの方達が作られていました。



僕も花輪作りに参加させてもらいました。



11月9日(Friday)

ベツァンさんのファームに行きました。羊と牛がたくさん放牧されていました。羊のほうが多かったです。



ケレディギオンミュージアムで昔の暮らしを学び、展示品を見ました。そこでは、ボトルの中に入った船や、昔のテレビや自転車が展示されていました。昔のアベリスツイスは全体が城壁に囲まれている町だったそうです。



11月10日 (Saturday)

Sally と Dylan と僕の三人でアベリスツイスの城跡と、慰霊碑を巡りました。



城跡の中には昔の大砲があり、実際に戦争で使われていたそうです。
城壁がどこも崩れていたのも戦争の悲惨さを感じました。
また、慰霊碑もあり、その大きさに圧倒されました。



11月11日 (Sunday)

アベリスツイスの戦没者追悼式に参加しました。今年は、第1次世界大戦終戦から100年目だそうです。大勢の人が参列されていました。



午後から、フランク・エバンス氏のお墓参りに行きました。



11月12日 (Monday)

ペングライス校に行って授業に参加してきました。

芸術の授業では、似顔絵を描いたり、ペングライス校の生徒達が描いた作品を見せてもらいました。独創的な作品があり、面白かったです。



午後からは、支援学級の生徒達とゲームをしました。

時計回りで1番目の人が言った言葉を2番目の人が記憶してその言葉と新しい言葉を言って3番目の人につなぐという記憶ゲームです。

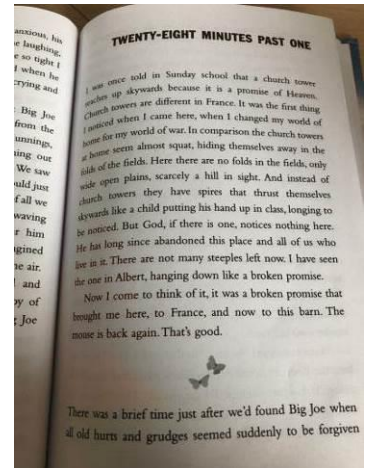
そのあと、お茶会もあり、アベリスツイスの伝統的な焼き菓子（パウンドケーキのような）を食べました。焼き菓子はとてもおいしかったです。紅茶を飲みました。アベリスツイスに行ってから、飲み物はほとんど紅茶でした。僕は、基本日本茶が好きですが、アベリスツイスに行ってから紅茶も好きになりました。



11月13日 (Thursday)

ペンウェディグ校で数学と英語の授業に参加してきました。授業はウェールズ語でされていました。

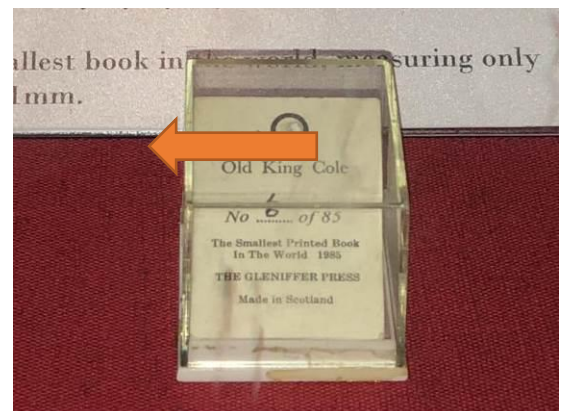
ウェールズ語は全く分かりませんでした。日本と違い、こちらでは先生が1つの教室を持っていて生徒が移動するという体制がとられていました



11月14日 (Wednesday)

ウェールズ国立図書館に行きました。昔の肖像画が保存されていたり、多くの本が保管されていました。その中に図書館にある一番小さな本が展示されていました。

(目測で5mmぐらい)



たくさんの大事な書物を火災から守るために、万が一火災が発生したら、二酸化炭素を部屋に充満させ消火する防災対策が取られていました。

また、毎週たくさんの本が入ってくるので、何度も増築をして保管場所を確保しているようです。



☆まとめ

今回の研修に参加させてもらって感じたことは、家族の大切さです。フランク・エバンス氏も捕虜として与謝野町に連れてこられ、家族と離れ離れになったと思います。ホストファミリーと戦没者の慰霊碑と城跡を見に行く途中で、海があり、フランク・エバンス氏もこの海を見て育ったのだろうかと思いました。僕の住んでいる地域の近くにも海がありますが、アベリスツイスで見た海とは全く迫力が違いました。僕が見ている海は穏やかで天候が悪くて波があっても怖いと思うことはないのですが、アベリスツイスの海は波が高く、荒々しく迫力があり恐怖を感じるぐらいでした。しみじみ僕は、遠い所に来たなあと思いました。フランク・エバンス氏も日本に連れてこられ実際に海を見たかは分かりませんが、遠くに來たと感じたはずです。

今まで、家族に頼っていることばかりの生活で、困ったことがあっても家族がすぐそばにいて助けてくれました。家族と一緒にいることが当たり前だったので、アベリスツイスにきて仲間はいますが、とても孤独に感じました。アベリスツイスで見た海も、僕が住んでいる地域で見る海も同じつながっている一つの海です。平和とは、人と人とのつながりだと思います。穏やかな人も荒々しい人もいますが、同じ一人の人間です。人と人が、理解しあって平和も実現すると思います。フランク・エバンス氏のことを次の世代に伝え、つなげていくことが大切だと思います。だからこそ、交流が大事なことなんだと思いました。

今回この研修に参加することを応援してくれた家族に心から感謝します。ありがとうございました。



アベリスツイス派遣事業研修報告書

宮津高校 1年 森本 真依

○研修目標

- ①文化・習慣の違いを知って自らの視野を広げる
- ②自分なりにエバンス氏の遺志、この事業の意義を見出す

○現地研修について

①ホストファミリー

マナ・・・すてきなアーティスト。笑顔もすてきなわんぱくガール。

ミリアム・・・美人なうえにやさしい、大人なプリティガール。

フレヤ・・・明るくておちゃめで、でもちゃんとお姉さんな一面もあるパーフェクトシスター。

マナ母・・・料理は独創的だけど、頼もしいナース。

マナ父・・・天才シェフ。垣間見せるおちゃめは虜。

ミリアム母・・・いつも私を優しさで包んでくれた、ラブリーマザー。



②学んだこと

ア) 食品会社の見学にて

この会社では、民間の農家の方々をサポートすることによって町の農業を盛り上げている。

例えば、高価な専門機器などは入手しづらいので、それらが整った環境を提供している。

また機械の提供だけでなく、マネジメントもサポートしている。

→民間の農家の可能性が広がる

→農業が活性化する

イ) 第一次世界大戦戦没者追悼記念

記念パレード、追悼式に参加した。事前研修を通して、この研修にはエバンス氏の平和への願いが込められていると学んでいた。そのこともあり、平和というものに傍観的だった私にとって、とても意味深いものとなった。



ウ) アベリスツイス大学の留学生との交流

さまざまな国のさまざまな文化・価値観などを知ることができた。同時に自分たちからも日本を発信することによって、故郷の再認識ができた。

→海外という視点から日本・与謝野を見ることができた



③気づいたこと

- ・ 日本の技術のすばらしさ→トイレ、車などの性能
- ・ 日本人と海外の時間感覚の違い→スケジュールをたてるということをしていなかった
- ・ 日本・与謝野町が見習うべき町のあり方→農業の体制などは与謝野町も取り入

れるべきである

- ・ 言語の違いは重要ではない→伝えようとする姿勢と受け取ろうとする姿勢があればなんとかなる
- ・ 平和の普遍性→文化や価値観、言語の違いはあっても、平和を願う気持ちは変わらない

→エバンス氏を包んだ温かみは、人々の平和を願う気持ちでもある

→今回味わったたくさんの人の温かさは平和への鍵

○研修を終えて

①成長したこと

- ・ 積極的なコミュニケーションを取る力がついた
- ・ さまざまな文化・習慣・価値観にふれたことによって、物事への視野が広がった

②今後の展望

- ・ 今回の経験を家族、クラスメイトなどたくさんの人に伝える
- ・ この2週間がただの思い出ではなく自らの財産となるよう、このように振り返り、整理し形に残す
- ・ 今回改めて発見した日本・与謝野町の魅力を部活などを通して掘り下げていく
- ・ 手に入れた価値観などを生活に取り入れる

○最後に

私はこの研修に参加するにあたって、楽しみやワクワクもありましたが、同じように不安もたくさんありました。でも今はそれ以上に、この貴重な経験ができたことに喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。今回の研修で手に入れた力、学び、価値観は、今そして将来、ありとあらゆる場面で生きてくるでしょう。とても有意義な2週間を過ごすことができました。そして何より、エバンス氏の遺志である両町・世界の平和を願う思いに応えられるような架け橋になれたことは、一番大きなことかなと思います。

最後に、今回この事業に協力してくださった全ての方々にお礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

アベリスツイス交流事業

加悦谷高校二年井戸本愛羽

○きっかけ

私は中学生の頃は、英語が苦手でテストも平均点以下でした。

しかし、すごく単純なきっかけですが、高校生になってから英語の成績が伸び始めて英語を勉強することの楽しさに気付きました。

高校一年生の時、アベリスツイスの生徒の方達との交流会がありました。その時にゆっくり話せる時間がなくて、もっと話しかければ良かったと後悔したのを覚えています。そして、高校二年生の夏休みに担任の先生がアベリスツイス交流事業のことを教えてくださいました。去年の交流会のリベンジをしたいと思います。それに塾の先生からいつも「外国に行けば世界が変わる」と言われていたので、ずっと外国に行くことに興味を持っていました。不安な事はたくさんありましたが、申し込む事に決めました。

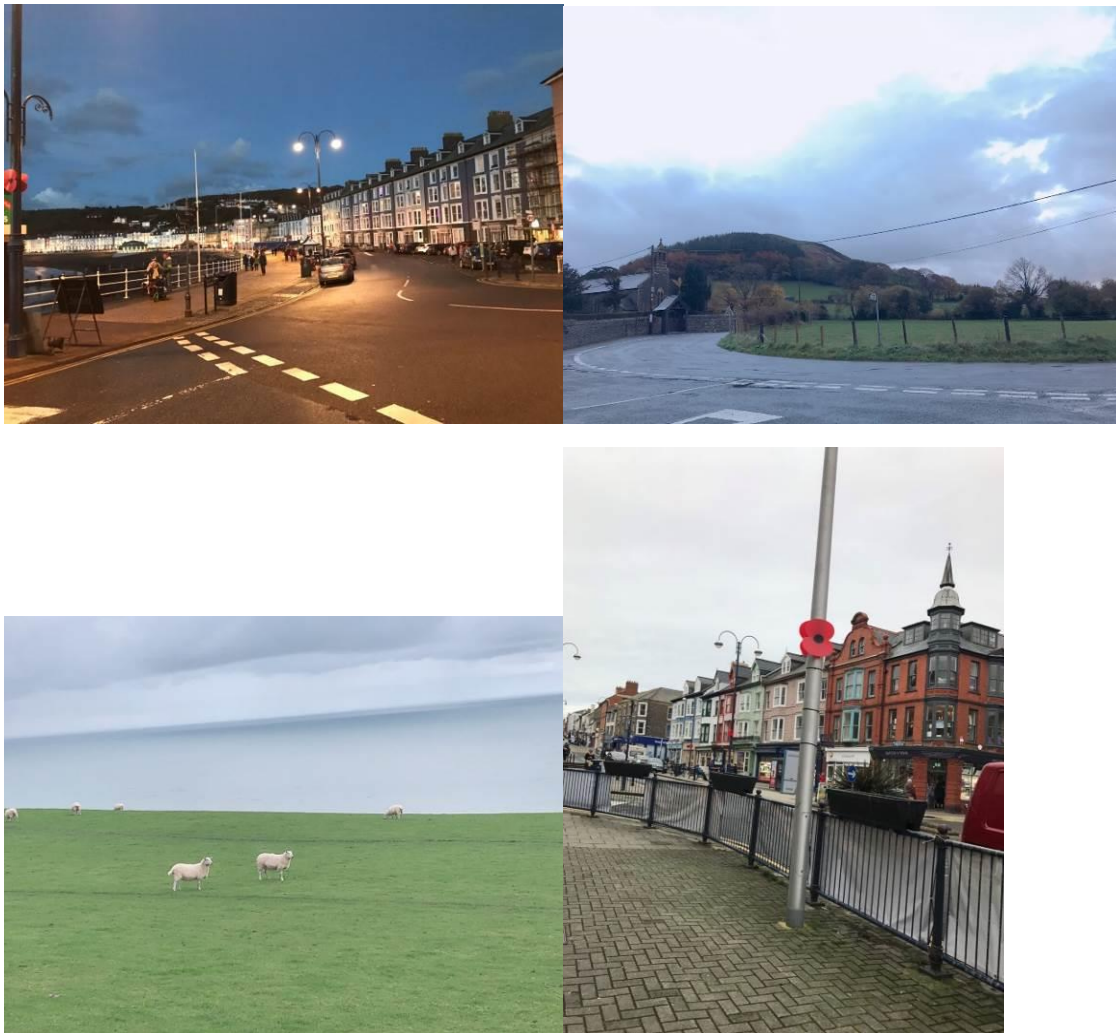
○目的

私がアベリスツイスに行く目的としていたことは、フランク・エバンスさんの思いを忘れず、この事業がこの先も続くようにアベリスツイスについて知り、与謝野町を知ってもらうことと、自分の世界を広げることでした。

○アベリスツイスの紹介

イギリス・ウェールズの絶景で有名な海岸線にあります。大学のある学園都市であり、ウェールズ屈指の文学の殿堂ウェールズ国立図書館があるため観光客だけでなく英国各地から学生が集まります。イギリスの公用語は英語ですが、ウェールズでは全人口の五分之一がウェールズ語も話します。田園地帯が広がっています。

※ウェールズ語：ボレダ(おはよう)、ディオルホ(ありがとう)など。



○ホストファミリーの紹介

ホリー

アベリスツイスで出来た初めての友達で、私の下手な英語も「大丈夫だよ」といつも言ってくれる優しい 16 歳の女の子です。

シェリー

毎晩美味しいご飯を作ってくれました。

考古学が好きで、お城に連れて行ってくれました。

デビッド

毎日「今日はどうだった？」と私の話を聞いてくれました。

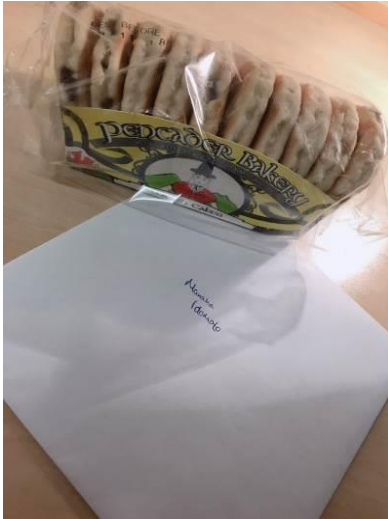
日本にとっても興味を持っていていました。



○食べ物

・ウェルシュケーキ

昔からあった、鉄板で焼くフラットブレッドに脂肪分、砂糖とドライフルーツを加えたものです。ホリーがお土産で渡してくれたり、食べる機会が多かったです。



・カウル

大きな塊の羊の肉や野菜を煮込んだ伝統的なスープです。チーズやパンと合わせて食べます。シェリーが作ってくれました。

・フィッシュアンドチップス

タラなどの白身魚のフライに、棒状のポテトフライを添えたものです。

・スコッチエッグ

ひき肉に玉ねぎのみじん切りを混ぜたものでゆで卵を包み、小麦粉、溶き卵、パン粉をつけて油で揚げたものです。

○ゲーム

・ジェンガ



同サイズの直方体のパーツを組んで作ったタワーから崩さないように注意しながら片手で一片を抜き取り、最上段に積み上げる動作を交代で行うテーブルゲームです。

・ドラフト



相手の駒を取り合うゲームです。色違いの丸い駒を使用します。縦横 8 マスのチェスボードを用いるものと、9 マス、10 マスの独自のボードを用いるものがあります。

・モノポリー



双六の要領で盤上を周回しながら他プレイヤーと盤上の不動産を取引することにより同一グループを揃え、家やホテルを建設することで他のプレイヤーから高額なレンタル料を徴収して自らの資産を増やし、最終的に他のプレイヤーを破産させることを目的とします。

・ツイスター



ルーレットのような掲示板によって示された手や足を、シートの上を示された 4 色の丸印のところに置いて行き、出来るだけ倒れないようにするゲームです。

○ポウイス城



ウェールズのウェルシュプールにあるお城です。城内には当時から使われていた家具や雑貨などがたくさん展示されていました。大きな庭園が広がっています。

○ケレディジョンミュージアム



劇場を改装して博物館にした建物です。ここにも絵画やはく製などが展示されていました。



○マーチ



第一次世界大戦の戦没者全ての人達を追悼するためのものです。その人達への感謝の意を表すポピーの花を身に着けて参加しました。

○訪問を終えて

私は今回の訪問で多くのことを学ぶことができたと思います。話の内容を全く理解できなかった時は、今まで何のために英語を勉強してきたのだろうと自分をとても情けなく感じました。しかし、小さな話題でも英語で初めて意思疎通ができた時は嬉しく、もっと英語を話せるようになりたいと思えた瞬間でした。関わるすべての人たちの優しさに何度も助けられて、長いだろうと感じていた滞在は本当に楽しくて、新しい発見ばかりで、一瞬のよう感じました。

目的を達成するために積極的に質問したり話しかけることを心がけました。そうすれば、相手も私が理解できるように答えようとしてくれました。何かを伝えようとする気持ちや姿勢があれば、例え文法がおかしかったとしても伝えることができます。黙っていても誰もわかりません。自分で勇気を持って失敗を恐れずに行動することの大切さを学びました。それで失敗したことは、私にとって良い経験になったと思っています。これからは、もっと上手く自分の気持ちを英語で表現できるように勉強していきたいです。大学に入ってまた留学をしたいと考えています。そして、いつか英語力により自信ができたときにはホストファミリーと再会してきちんとしたお礼をしようと思います。

ホストファミリーの家でみんなとニュースをみているときに、「日本の首相はどんなの？」と聞かれた時がありました。私は政治の知識などがなく、何とも答えられませんでした。日本人としての自覚を持って日本を自分自身が知らなければいけないと思いました。政治については知ってもらうことはできなかったけど、折り紙、駒、竹とんぼ、万華鏡をプレゼントして使い方を教えてあげました。どれもすごく興味を持って聞いてくれました。

与謝野町にはこの交流事業がどんなもので、どうして始まったのか知らない人が多いはずです。アベリスツイスとの関係をこの先ずっと続けていくためには、もっと多くの人に知ってもらう必要があると思います。今回私が訪問した話を聞いて興味を持ってくれた人達がいいます。少しでもこの関係がより良くなる役に立てたらと思います。

たくさんの人達の協力があったからこそ、私達はこの交流事業を成功に収めることができました。そのことへの感謝を忘れずに、この貴重な経験を生かしていきます。



アベリスツイス交流事業 報告書

宮津高校 2年 丸山大空

1 研修の目的

- ・ 本場の英語に触れ、現地の人とコミュニケーションをとる
- ・ 普段できないことをして、将来に活かす
- ・ 与謝野町とアベリスツイスの関係の始まりについて現地に行き自分の考えを作る

2 日本からアベリスツイスへ

(関西国際空港→ドバイ→バーミンガム→アベリスツイス)



- ・ 飛行機は世界的に有名なエミレーツ航空
- ・ ドバイは深夜でも一帯が輝いていた
- ・ バーミンガム空港からの電車からは都市や田舎の風景が

3 ホストファミリー



父 Neil(ニール)
母 Julia(ジュリア)
子 Christian(クリスチャン)
犬 Sparkie(スパークー)

みんな超やさしかった！！



キャラバン

キャラバンの中

日本でいうホテル経営の家族 名前は「WARREN PARK」
 キャラバンという個別の宿泊施設が敷地内に 30 個以上はあった
 また、宿泊者や家族が利用できるテニスコートやプール、公園もあり羊もいた

とりあえず敷地が広くて管理が大変そうだった

4 アベリスツイス



イギリス、グレートブリテン島の西部に位置するウェールズ内にある学生の街
 海と山があってあまり都会ではなく、少し高低差があった
 また動物がとても多く、移動する道中で必ず牛と羊を見た

気温は日本と同じくらいだったけど、風が強くすごく寒かった
通り雨がとても多く傘ではなくてパーカー付きの服の方が良かったかも

個人的には宮津と与謝野を合わせた感じがして、与謝野に少し似ていると思った
歩いている人は学生が多く、様々な国の人がいた
日本とは違い自動販売機がなく、ごみ箱がすごく多かった

5 歓迎セシモニー



研修メンバー全員のホストファミリーに加え、町長や学校の校長先生、
その他たくさんの方が来ていた
以前日本に来ていた方とも話をしてたくさんの写真を見せてもらった

どんな場所でもパーティー的な催しは似たような感じでたくさんの人と話せて
とても楽しかった！！
自己紹介は詰まったけど思ったよりうまく行って良かった
ダンスは不安しかなかったけどたぶんうまくできた

6 訪れた場所



◦AMEGUEDDFA CEREDIGION MUSIUM

アベリスツイス(ウェールズ)の産業や街の歴史などが見れる美術館
もとは映画館だった

**3 階構造で昔使っていた農業の機械などが展示されていて、感慨深かった
個人的に気に入ったのは、昔の時計！今でも動いているのもありました**



◦Powis Castle

13 世紀にできたレンガ造りの城 城の郊外には写真のような家もあり、
小さな村のようだった

これこそヨーロッパのお城、という感じの城だった

高さはそこまでなく、つたやこけから歴史がすごく感じられた

中の展示品は音声説明付きのものもあり、なかなか良い観光地だと思った



◦ Ynyslas Beach

アニスラス・ビーチ ウェールズの中でも有名なビーチらしい
訪れた時は晴れていて、写真のようにとても良い景色だった

風が強くて、少し寒かったけど景色が最高だった！

**訪れた時は、戦争関連で砂浜に兵士の絵が描かれていて、クオリティがすごかった
観光だけでなく犬の散歩などにも適しているかも？**



◦ National Library of Wales

ウェールズ国立図書館 20 世紀に建てられた国立図書館
何度か改装工事も行われており、本が増えるごとに大きくなっている
7, 000, 000 のフィルム、6, 000, 000 の本や新聞というように、
本だけでなく絵や地図などが数えきれないくらいある
両町の関係の始まりの関係者であるフランク・エバンスさんの資料もある

丘の上にあって、景色がとてもきれいな場所だった

**中は本ばかりというわけでもなく、様々なコーナーがあり休暇にも適していると思う
世界一小さな本を見たが本当に小さく、親指の長さもなかった
書籍などが多すぎて管理が大変だと思った**

その他にもいろんなところに行き、いろんなことを学びました

7 終戦記念パレード



毎年11月の第二日曜日に行われる第一次世界大戦の戦死者を悼む行事
この日が近づくとウェールズの人々は「赤いポピー」を身につける
また、ニュースでも第一次世界大戦について取り上げられていた

とても大きなパレードだったので一瞬で大事なものとわかった
写真の塔の下には戦死者の名前が書かれており、その多さに驚いた
こういった行事を永續させるのが二度と戦争を起こさないためにも必要だと思った

8 ウェールズの食事



イギリスの食べ物はあまり印象が良くないが決してそうではなかった
日本人が普段食べ慣れていないだけで慣れれば大丈夫！

基本食事の味付けは全部濃かった

チョコブラウニーを食べた時は胸やけになりかけました

そしてなにより、チップス(フライドポテト)が多すぎ！！

**日本のご飯がイギリスで言うとポテトで必ずと言っていいほど食事の度に
ポテトが出てきました**

カレーを頼んでもライスではなくてカレーポテトでした

9 まとめ

時間はたくさんかかったし大変な事もあったけど行ってよかった！！

コミュニケーションは最初不安だったけどやってみると案外出来るもの
単語を繋げただけでも通じるので、文法などは正直いらなかった

大切なのは伝えようとする気持ち!!

日本に帰ると改めて日本の良さがわかったし、**外国に行くのはすごくいい経験**
その後が大変でも将来必ず役に立つ!

フランク・エバンスさんは自分が体験したような事が起きないように、そんな体験をし
た与謝野町と関係を築いたのだと思う

今までつながってきたその関係を継いで次につなぐのが自分達のやるべきこと

学んだ事は「コミュニケーションの大切さ」「平和の重要性」

「歴史を繋いでいく事の大切さ」「世界の広さ」など

挙げていけばキリがないほどたくさんの事を学べた！！

今後の生活や進路に必ず学んだことを活かしていきます

今回の留学に協力して頂いたすべての方、本当にありがとうございました

2018 与謝野町・アベリスツイス交流事業報告

観光交流課 主任 廣谷 章彦

観光交流課 主事 谷原 春加

1. はじめに

第2次世界大戦時に日本軍の捕虜となり大江山ニッケル鉱山で強制労働に従事させられた故フランク・エバンス（Frank Evans）氏と与謝野町（当時の加悦町）とで昭和59年（1984）年に始まった英国・ウェールズのアベリスツイスとの交流は今回で第13回目の高校生派遣をむかえ、今回の派遣を含めて合計75名の高校生を派遣しています。

2018年の派遣に関しては夏から派遣準備を始めましたが、昨年の高中生受け入れの年から担当になった私（谷原）にとっては初めての事が多く、特に今回は①山添町長が同行されること、②ハーフターム（アベリスツイスの高校の休暇期間）の交流でないこと等、例年とは異なる点もありました。

2. 例年と異なること

①山添藤真町長の同行

今回は団長として11月5日から8日まで、山添町長が高校生派遣団に同行されました。出発前の目的であった与謝野町とアベリスツイス大学の包括協定調印式のほか、同大学副学長のエリザベス・トレジャー氏との会談、さらに、先方の友好協会の元会長のアウエル・ジョージ氏、友好協会会員でありケレディオン郡の議員でもあるケレディグ・デイビス氏の尽力により、同郡議会議長ハグ・ハリス氏、アベリスツイス町長のタラト・チャドリー氏とも懇談をすることが出来ました。

②ハーフターム（アベリスツイスの高校の休暇期間）でない時期の交流

例年はハーフタームという高校の授業が少なく、現地の高校生が自由に動ける時期に交流事業を行っていましたが、今年度の派遣では逆にハーフタームを避けて欲しいと言われたことから、ハーフターム期間終了後の訪問となりました。このため、昼間の平日に現地の高校生が同行できる時間が少なくなりましたが、そのぶん企業訪問や大学生との交流といった時間がありました。

③宿泊施設（アベリスツイス大学）

アベリスツイスでは宿泊を伴うホームステイに制限がかけられていることから、2014年の派遣団からアベリスツイス大学の宿泊施設に宿泊しています。

今年の宿泊所はアベリスツイス大学の敷地内にある「バンクハウス」という新しい建物で、到着後すぐに

ホテルのようなカードキーを渡されました。このカードキーで①バンクハウスの入り口、②男性ゾーンと女性ゾーンに別れている扉、③各自の部屋、④ランドリーの入り口を解錠できます。大学構内では Wi-Fi 登録を済ませれば、この日からインターネットも利用できました。また、毎日「Tamed Da」というアベリスツイス大学の学食で朝食をとりました。

3. 事前研修会（5 回）

研修生達は本事業への申込後、全員小論文と面接で採点されています。さらに、選抜された 5 名の研修生は、アベリスツイスに渡航するまでに合計 5 回の事前研修会に参加し、この交流の経緯、目的、第二次世界大戦中に故フランク・エバンス氏がされた体験について学び、与謝野・アベリスツイス友好協会の糸井会長、山崎副会長にご同行いただき大江山運動公園に建立された慰霊碑への参拝や、大江山ニッケル鉱山跡、日中悠久平和友好碑の見学を行いました。

この事前研修は、交流の背景を知り、ただの語学学習以上の学び、気付きを得て欲しいという思いで開催しています。

4. 現地研修

◇11月5日（月）

◆与謝野町役場での出発式

17:00 出発式 町長あいさつ、高校生から意気込み発表

保護者、与謝野・アベリスツイス友好協会会員、本庁舎勤務職員参集

17:15 出発 関西国際空港へ向けて出発

友好協会の山崎副会長と奥野理事長、観光交流課の市田主幹が同行



出発式の様子（左：山添町長あいさつ、右：高校生）

◇11月6日（火）

◆移動中



ドバイ国際空港にて



アベリスツイス行きの列車



車内の様子



◇11月7日（水）

◆Food Centre Wales

中小企業を中心に製品づくり（付加価値を高める）への支援を行なっている機関です。小さな農家がチーズを製品化するといったことへの技術指導や機材貸し出しなどのスタートアップ支援も行っており、大きい会社への新製品開発へのコンサルも行なっています。ウェールズ内に3箇所のセンターがあり、近くのセンターのどこでも同様のサポートが受けられます。



会社の説明



クレディギオン議会議長と



記念撮影



センター内見学

◆ABER INSTRUMENTS

アベリスツイス大学の研究機関から独立した会社で、細胞、培養をモニターに写す計測機器等を作っています。例えばビール醸造では、この会社の計測機器を活用して醸造中のビールの中に含まれるイースト菌の量を計測、常に同じ味のビールを作れる、といったものです。計測機器はビール醸造だけでなく医療やバイオテクノロジーの分野でも活用されており、ビール醸造分野では Heineken や SAB ミラー、医療（医薬品開発）分野では gsk や NOVARTIS を始めとした企業に利用されています。

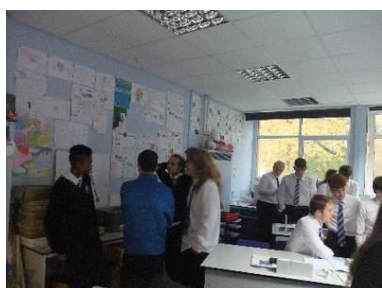


施設の説明



◇11月8日（木）

◆ペンブライス校訪問



生物の授業に参加

◆アベリスツイス大学ツアー（高校生）

アベリスツイス大学は現在 60 学部で 8,000 人の学生が合計 90 カ国から来ているという国際色豊かな大学です。中でも国際政治学部は世界一古い歴史を持つという、伝統ある大学です。アベリスツイス大学の外国人留学生（カタル、パキスタン、韓国、日本等）とともに大学職員のレイチェル氏からアベリスツイス大学の概要について話を聞き、研修生から留学生に与謝野町とアベリスツイスの交流の経緯を説明した後、心理学部の導入講座を受けました。

心理学の講座では、商品を作る時にも消費者の購買意欲をかき立てるよう心理学の技が使われており、心理学は身近だという、興味深い話を聞かせていただきました。アベリスツイス大学の教室の机が緑色なのは、「青より緑のほうが 10 分間集中力が長く持続する」という研究結果があるためだそうです。



キャンパス



大学生に交流の経緯を説明



大学留学生との交流

講座を受けた後はそのまま留学生とともに学食で昼食をとり、交流を深めました。

◆アベリスツイス町長との懇談（山添町長）

山添町長の「歴史のある交流事業を今後も長く続けていきたい。高校生にとって人生の転機となるかもしれないこの事業がより良い方向に向かうよう努力したい。」との発言に対し、アベリスツイス町長からは、「ヨーロッパでは、町が国際交流に予算を使うのは常套。アベリスツイスでもフランス・ボルドーなど 4 つの町との交流に予算を使っている。今回の交流を機会に、町としても交流事業に参画していく。経済的にも少しずつ前に進みたい。大勢の人を巻き込んだほうが、可能性が大きくなる。大学連携においても声を掛けてくれればよい。」との発言がありました。



オフィス



町長との懇談



◆アベリスツイス大学エリザベスとの懇談（山添町長）

※午前中にルース(Ruth)と連携協定の打合せを行いました。MoU は 3 年間更新、MoA はこれまでの内容を基にして個別事業の実施内容を修正することとしました。



エリザベスと



ルースと

◆レセプション

レセプションには友好協会関係者、ホストファミリーに加えてレベッカ（2016 年ホストファミリー・2017 年度高校生訪問団員）、ベツァン（2016 年ホストファミリー・2017 年度高校生訪問団員）、ベラ（2017 年度大学生受入事業・与謝野町訪問団員）も駆けつけてくれました。研修生は一人ずつ自己紹介やアベリスツイスの印象を英語で発表し、準備してきたダンスを披露しました。



各テーブル



各テーブル



町長あいさつ



記念撮影



高校生あいさつ



高校生ダンス

◇11月9日（金）

◆Farm

2016 年度高校生派遣のホストファミリーであり、2017 年度に与謝野町を訪れたベツァンの家で、ベツァンのお父さんが経営するファームを見せて頂きました。ベツァンはすでに進学のために家を離れて車で 1 時間ほどのところに暮らしていますが、派遣団のための歓迎レセプションとファームの案内のために帰ってきてくれていました。ファームではウェルシュ・ブラックというウェールズ種の牛や、羊を飼育していました。ウェールズは土地が貧しく、作物を育てることに向いていないため、羊の放牧が盛んです。羊はフランスに出荷することが多いため、先行き不透明なブレグジット（BREXIT：英国の EU 離脱）が羊の出荷にどう影響してくるか分からなくて不安だと言っていました。



ウェールズ種の牛を飼育



丘陵の上で①



古い造りの住宅（暖炉はあるが、電気はない）※空家



丘陵の上で②

◆Ceredigion Museum



旧タウンホール前の桜



映画館の造りを残す



記念写真





展示の様子

◇11月10日（土）

◆サナヘイロン



◆アバラエロン



◇11月11日（日）

◆Remembrance Sunday

第1次世界大戦終戦記念として毎年開催されているパレードにホストファミリーとともに加わりました。パレードは例年11月の第2日曜日に開催されおり、高校生の交流事業では少しだけ時期がずれていることが多く、与謝野町の高校生がパレードに加わったことは旧加悦町時代から通算しても今回で2回目です。また、今年が終戦100周年ということで例年より盛大なパレードとなっていました。

パレードに参加した後はホストファミリーも一緒にタリボン（Talybont）に移動してこの交流のきっかけとなった故フランク・エバンス氏のお墓参りをしました。



パレード



記念式典

記念写真

※地元新聞社の取材があり、11月15日付けの新聞に掲載されました。

◆Frank Evans' Grave

故フランク・エバンス氏のお墓参りは、現地で交流をする中で与謝野町の高校生にフランク・エバンス氏の思いの認識を新たにするためにも、毎回必ず行程の中に組み込んでいただいています。ホストファミリーも参加いただけるので、初めてこの交流事業に関わったホストファミリーの皆さんも、この事業の趣旨を理解することができる機会となっています。



アウエルさんから説明



記念写真



エバンスさんのお墓

◇11月12日（月）

◆ペングライス校

アベリスツイスに2校ある高校のうちの1校で、ペングライス校は全て英語で授業を行っています。世界史の授業を見学した際は、先生が一方向的に講義を進めるだけではなく、生徒たちに画像を見せて「これは何が起こったときの写真？」「なぜこれが社会問題になったの？」と問いかけて答えさせる時間が長くとられており、日本の授業と違いを感じました。また、世界史の授業も日本の高校生が学ぶように世界中の大きな出来事を紀元前から網羅するというものではなく、ここ200年の特定の地域の出来事を学ぶという話だったので、日本の高校の「世界史」との違いを感じました。演劇の授業も自分たちで話を作って演じるという、日本の公立中学・高校ではまず無い授業でした。



美術の授業



特別支援学級



国外から転入して間もない生徒のクラス



与謝野町から送られた椿の前で



音楽の授業

◇11月13日（火）

◆ペンウェディグ校

アベリスツイスに2校ある高校のうちのもう1校、ペンウェディグ校はウェールズ語の使用を推奨しており、主にウェールズ語で授業を行っています。ここでは朝礼や授業見学のほか、元アベリスツイス大学生でペンウェディグ校の数学教師になっていたトム・ウィリアムズ氏の教室に行き、近年知られるようになった中国式の掛け算を教してもらいました。大きな桁の計算がすばやく出来るので、研修生も「帰ってから学校の先生に紹介してみる！」と言っていました。トムの教室（先生一人ひとりが教室を持っており、生徒が授業に応じて移動する形式なので先生によって教室のデコレーションが変わります）には与謝野町訪問時に与謝野町立染色センターで染めた「π（パイ）」の文字が書かれたタペストリーがかけられていました。



休憩中（支援学級の生徒と交流）



数学教師のトム(2016年に与謝野町訪問)と



カラフルな校内



玄関前



校内の掲示



◇11月14日（水）

◆Machynlleth（水曜マーケット）



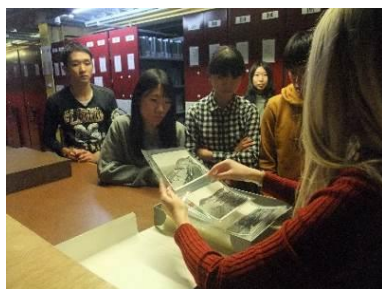
マーケットで買い物



ジェイク・キャロライン夫妻と



National Library の説明



バックヤードでの説明



1908 年の新聞

◇11月15日（木）

◆アベリスツイス出発

7:30 出発 バーミンガム駅へ向けて出発

アウエルさん、ホストファミリーをはじめ、多くの関係者に見送りに来ていただきました。

途中の駅でジェイクさん・キャロラインさん夫妻、クリスチャン夫妻（丸山さんのホストファミリー）も見送りに来ていただきました。



集合写真



お別れ



◇11月16日（金）

◆与謝野町へ帰着

16:55 関西国際空港到着

友好協会の山崎副会長と奥野理事長、観光交流課の安田主任が出迎え

21:30 役場本庁舎到着

保護者、観光交流課職員が出迎え
植田課長挨拶のあと、解散



バスの車内



役場到着

5. 帰国後

12月11日（火）に事後研修を開催し、研修の振り返りを行った後に12月26日（水）、与謝野・アベリスツイス友好協会の糸井定次会長をはじめとした会員のみなさま、研修生のご家族のみなさま、その他本事業に関心を持たれている方々にお越しいただいて報告会を開催しました。

研修生は一人ずつ、準備してきたパワーポイントをスクリーンに投影して研修報告を行いました。交流を深めたことだけでなく、事前学習や現地研修の中で学んだ故フランク・エバンス氏の思いを正面から受け止め、自分たちも平和の架け橋になるという思いを発表してくれたことは喜ばしい限りです。

6. 最後に

観光交流課 主任 廣谷 章彦

今回、アベリスツイスへの高校生派遣は、山添町長を団長として高校生 5 名、随員職員 2 名の合計 8 名での訪問となりました。アベリスツイス滞在中は、歓迎レセプションなど、現地友好協会会長のマイルさん、元会長のアウエルさんをはじめ、皆様の心温まるおもてなしを受けることができました。両町の関係者の皆様が、交流のきっかけを築かれたフランク・エバンスさんの「平和への思い」に心を寄せ、この思いを未来へ引き継いでいくこととして高校生の相互派遣を長年継続されてきたことによるものであると感じることができました。両町友好協会の皆様に感謝申し上げます。

また、今回の訪問には平成 27 年にアベリスツイス大学と締結した連携協定の更新という目的もありました。山添町長から同大学のエリザベス副学長に同大学と本町との交流の継続を申し入れたところ、快諾いただき、大学生の受け入れやサマースクール参加に対する助成などを継続していくこととなりました。

さらに、アベリスツイスのタラト町長との懇談においては、今後は町としても本交流事業に参画していきたいとの言葉をいただくこともできました。これにより、今後の交流事業の取り組み方にも変化が出てくるかもしれません。

今回、派遣事業に参加された高校生におかれましては、ホストファミリーや現地関係者との交流により生まれた新たな絆を大切していただき、今後もアベリスツイス大学も含めた両町の交流事業に積極的に参加していただきたいと願っています。

私は今回で3回目のアベリスツイス訪問となりましたが、この交流事業の担当者としてはまだ2年目で、実際に担当者として派遣事業を行うことは初めてでした。特別に英語が話せるという訳ではありませんが、この交流事業に同行して研修生の皆様の成長を間近で見せて頂き、研修生の皆様と多くの楽しみや学びを得るという、かけがえのない時間を共有させて頂いていることに喜びを感じています。

現在、英国は国民投票によってEU離脱が決まったものの、具体的な方向性が示されておらず国民の不安は募るばかりと聞いています。今回の現地研修で見学させていただいたアベリスツイス大学も、現在でも財政状況は決して見通し穏やかではない上に、英国のEU離脱の影響で今まではEU圏内で取得する必要のなかった在留資格を取得しなければなくなる可能性があることや、EU離脱による影響で留学生の大幅な減少が見込まれることから不安を感じていると言われていました。ウェールズで牧場を営んでいる農家の方も、EU加盟国として受けられていた補助金や輸出面での恩恵が離脱後どうなるのかを懸念されていました。

このように社会情勢は先行き不透明ですが、研修生の皆様は現地研修でホストファミリーを始めとするアベリスツイス現地の方々と親交を深め、明るい笑顔でホストファミリーと何をしたかを聞かせてくれ、さらに、ホストファミリーの中には「次回の派遣で与謝野町を訪れたい」と言う高校生も出てくるほど、研修生の「友好大使」としての役割もしっかりと果たしてくれていました。

また、2016年にアベリスツイスとの大学連携事業で与謝野町を訪れたトム・ウィリアムズがアベリスツイスにあるペンウェディグ校で数学の教師になっており、現在同校の校長代理を務めているリアン・モーガン氏はアベリスツイスから本交流事業で与謝野町を訪れた第一回目の派遣団員です。さらに、近年アベリスツイス交流事業で与謝野町からアベリスツイスを訪れた高校生達の一部が、与謝野町の小学5～6年生を対象に開催されているイングリッシュキャンプでアベリスツイスについて小学生に紹介したところ、「アベリスツイスに行ってみたい」という意見が出てくるなど、先人たちの努力で続けられてきた本交流事業が両町に浸透してきています。

本事業は与謝野町への受け入れの際は与謝野・アベリスツイス友好協会が主体となって行われており、アベリスツイスに高校生を派遣する際はアベリスツイス・与謝野友好協会の皆様に全行程の企画・手配をお世話になっているなど、双方の関係者の長年の尽力の上に成り立っている事業です。先人の努力に報いるためにも、将来ある若者のためにも、この事業を大切に続けて行きたいと考えています。

最後に、研修生の皆様には数々の不行き届きをお詫びするとともに、研修に参加したいという研修生の思いを後押ししてサポートして下さった研修生の保護者の皆様、アベリスツイスと与謝野町双方の友好協会の皆様の始めとする、本研修の実施にご協力いただきました関係者の皆様に感謝申し上げます。

2018 アベリスツイス高校生派遣事業報告書
平成31年3月発行

編集発行 京都府与謝郡与謝野町字岩滝1798番地1
与謝野町観光交流課
電話：0772-43-9016
(表紙：歓迎レセプションにて)